



みつけた!



万葉のロマンあふれる引馬神社



現存する最古の歌集である万葉集に「引馬野に ^{ひくまの} にほふ ^{はりはら} 榛原入り乱り 衣にほはせ旅のしるしに」という歌があります。この歌は大宝2（702）年、持統上皇の三河行幸に同行した長足寸奥麻呂が詠んだ歌で、歌にある地名の引馬野の所在地には諸説があります。御津町御馬地区周辺は、かつて引馬野と呼ばれたという伝承があることからその一つとされ、引馬神社の名称は、明治新政府の神仏分離政策により牛頭天王社から伝承にちなんで替えられたものです。境内には、この歌ともう一つ万葉集にある高市黒人が安礼の崎を詠んだ歌を刻んだ歌碑があります。

引馬神社は、正暦年中（990～995）に京都の祇園社（現在の八坂神社）から神仏を移し祭られました。8月4日（土）・5日（日）に本祭りが行われますが、5日には鎌倉時代から伝わるという3人の若者が勇壮に踊る笹踊り、弁財天を除く他の六福神が、弁財天の使者である白狐^{びやくこ}とともに一列に並んで踊る七福神踊りが奉納されます。伝統芸能を見ながら、万葉のロマンに触れてみてはいかがでしょうか。

